

持続可能なランドスケープの設計 ～天白川水系から世界を俯瞰する～

持続可能なグローバル社会の実現のために、外部組織と連携したコンソーシアムを構築し、地域と国際社会が抱える諸問題を解決できる人材の育成を目的とした教育カリキュラム開発を実施する。本研究開発目標を実現するために「地域と連携したランドスケープ推進コンソーシアム構想」、「グローバル型地域協働教育カリキュラムの構築」、「国際教育とキャリア教育の再編成と体系化」を実践する。また、地域課題研究は水という大きなテーマを世界的な社会課題から調査研究すると共に、天白川水系を多様な視点から眺め、その環境の持続性と地域社会と共存できるランドスケープの在り方を研究する。

【コンソーシアム（未来共生ウォーターコンソーシアム）】

海外交流アドバイザー（JTB国際交流センター 中野 憲 氏）
 地域協働学習実施指導員（天白川で楽しみ隊・代表 岡田あつみ 氏）
 名古屋商科大学、日進市市民生活部市民協働課、
 le Lycée Georges Clemenceau de Reims（フランス）、ImmaculateConception School of Baliuag（フィリピン）、国際連合地域開発センター、公益財団法人名古屋国際センター
 グリーンフロント研究所、認定NPO法人アイキャン・公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）、独立行政法人国際協力機構（JICA）中部国際センター等

【運営指導委員】

北村友人氏（東京大学教授）伊藤 博氏（名古屋商科大学大学院教授）
【国際教育推進委員会】
 名古屋国際中学校・高等学校教員

- コンソーシアム実施規定の作成と組織化
- 報告会における助言
- 対話セッションの実施と検証

令和3年度の目標

- (a) アカデミック・スキル獲得プログラムの構築
 国際理解研修のグローバル化
 プレゼンテーション、スピーチ等によるコミュニケーション力の獲得
- (b) コース・教科横断型指導法による先進的な学習スタイルの構築
 SIA特論の多様化
 SDGsを軸にした横断的教科教育
- (c) グローバルキャリア教育の構築
 普通科グローバル探究コース
 →新カリキュラムの実施
 SIA Skillsの実施
 国際理解講演会
- (d) 地域課題研究
 海外国際理解研修の実施
 天白川白書の作成
 コンソーシアムとの対話
 コンソーシアムとの協働活動

取組状況

COVID-19感染拡大により前年度の実戦の継続と改善
 [1]ICT機器を活用した「新しい学び」の創出
 [2]あらゆる社会状況でも学びを止めない環境づくりと柔軟でかつ挑戦的な実践の検証
 [3] ICT環境の整備と新しい学びの環境づくり
 [4]地域・国・海外と人びととの交流や協働の増進

- 学校間連携や地域ネットワークの構築
- 地域協働コンソーシアムゼミ：天白川フィールドワークや学校設定科目SIA、総合などの視点から「天白川白書」レポートを作成
- オンライン国際理解研修：カンボジアコース＝PBLによるの探究活動。オーストラリアコース＝国際理解とホームステイ等
- 報告会の実施（1月）：オンラインにて高校1年生・2年生に報告
- 企業協働事業：地元企業とのSDGsに関する商品開発やマスメディアへの協力
- 地域キャリア→総合的な探究の時間
 一般企業への取材とプレゼンテーションの実施
- Facebook・Instagramによる発信

成果と課題

[A]主な成果

- ・オンラインと対面によるハイブリット環境の構築とオンライン国際理解研修の新コースの設置(オーストラリアコース)
- ・学校間連携協定を締結：3校(愛知県、奈良県、高知県)
- ・愛知環境賞優秀賞・ビジネスコンテスト優秀賞などの外部評価
- ・コンソーシアム主催による対話セッションの実施(2月12日)。86名の参加があり、前年度比参加人数が大幅に増加。特に、企業や教育関係からの参加者が増加
- ・ネットワークの構築：SGHネットワーク、#せかい部、愛知県SDGs登録、名古屋市SDGs推進プラットフォーム、地方創生SDGs官民連携プラットフォーム



[B]課題から見えた事業終業後の計画

- ▶ オンラインを活用したあらゆる実践活動の経験から新しいICT機器やアプリケーションを活用した国内外の高校生が参加できる「新しい学びの場」の構築への挑戦
- ▶ 国内外における国際系の学校間連携の強化
- ▶ 地域に貢献する実践活動の持続：名古屋市昭和区との連携強化
- ▶ 産学官民連携による社会・経済・環境分野における探究学習の実施
- ▶ 国際バカロレア×グローバル型探究学習
 =名古屋国際独自の学習法